

# 令和8年 ぶどう病害虫防除暦(大粒種基準)

氷見市農業協同組合  
高岡農林振興センター

回数	月	時期	防除実施日	散布薬剤名	希釈倍率	薬剤の調合(水100%当り)	10a当散布量	収穫前日数	主な対象病害虫	注意事項
		休眠期(落葉後～発芽前)							晩腐病、黒とう病、つる割病 べと病、褐斑病、さび病 越冬害虫(ハダニ、アザミウマ等)	●病害虫防除は、薬剤散布のみに頼らず、左記に記す耕種的対策と組み合わせて、総合的に予防することが重要。
1	4	上旬(発芽前)		デランフロアブル	200倍	500ml	200g	休眠期	晩腐病、黒とう病、つる割病	●デランフロアブルは、発芽後の散布により葉に葉害を生じるおそれがあるので避ける。
2	4	中旬(発芽直前)		ベンレート水和剤	200倍	500g	200g	休眠期	晩腐病、黒とう病、枝膨病、つる割病	
3	5	上旬(展葉期)		オーシャイン水和剤 アリエッティC水和剤	2,000倍 600倍	50g 166g	250g	7日前まで 30日前まで	黒とう病、灰色かび病、うどんこ病 べと病、黒とう病、晩腐病	● <b>コウモリガ</b> の発生がみられた場合は、主幹部に <b>ガットサイドS</b> を塗布(原液～1.5倍液)または散布(1.5倍液)する。 ● <b>べと病</b> の発生が多い場合は、4回目のジマンダイセン水和剤を <b>リドミルゴールドMZ</b> (1,000倍、45日前まで)に変更する。
4	5	中旬		ジマンダイセン水和剤 スミチオン水和剤40	1,000倍 1,000倍	100g 100g	300g	45日前まで 21日前まで	晩腐病、褐斑病、黒とう病、べと病 ブドウトラカミキリ、フタテンヒメコバイ、コガネムシ類成虫	● <b>灰色かび病</b> の発生が多い場合は、 <b>フルピカフロアブル</b> (3,000倍、30日前まで)を単剤で散布する。但し、抵抗性回避のためフルピカフロアブルの連用は避ける。
5	5	下旬(開花直前)		フロンサイドSC	2,000倍	50ml	300g	開花直前～落 棄期(但し収 穫60日前ま で)	晩腐病、黒とう病、灰色かび病、 べと病、枝膨病	● <b>晩腐病、灰色かび病</b> の発生が多い場合は、5回目のフロンサイドSCを <b>スイッチ顆粒水和剤</b> (2,000倍、30日前まで)に変更する。 ●袋掛け前までに <b>カメムシ類、コガネムシ類</b> の発生が多い場合は、 <b>ダントツ水溶剤</b> (4,000倍、前日まで)を散布する(7回目に混用可)。
6	6	上旬(落花直後)		ストロビードライフロアブル パダンSG水溶剤	3,000倍 1,500倍	33g 66g	300g	14日前まで 14日前まで	灰色かび病、うどんこ病、晩腐病 チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメコバイ	● <b>幼果期～袋掛け終了までは</b> 、果面汚染(果粉溶脱)防止のため、展着剤を加用しない。
7	6	中旬		オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	300g	前日まで	晩腐病、褐斑病、うどんこ病	
8	6	下旬(袋掛け前)		エトフィンフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤	1,000倍 10,000倍	100ml 10g	300g	7日前まで 21日前まで	べと病 アザミウマ類、フタテンヒメコバイ	
9	7	上～中旬		ランマンフロアブル ディアナWDG	2,000倍 10,000倍	50ml 10g	300g	14日前まで 前日まで	べと病 アザミウマ類	●9回目について、バツファロー等の早生品種は、袋掛け終了後に散布する。 ● <b>ディアナWDG</b> は、抵抗性回避のため年1回の散布とする。
10	7	袋かけ後		ICボルドー66D 又はコサイド3000(クレフノン加用)	50倍 2,000倍 100倍	2g 50g 1kg	300g	— —	べと病、さび病、黒とう病(ICボルドー66D) べと病、さび病(コサイド3000)	●袋掛け後(7月下旬以降)、アザミウマ類の被害がある場合は、 <b>モスピラン顆粒水溶剤</b> (4,000倍、14日前まで)または <b>ダントツ水溶剤</b> (4,000倍、前日まで、チャノキイロアザミウマ対象)を単剤で散布する。
11	8	上旬		ICボルドー66D 又はコサイド3000(クレフノン加用)	50倍 2,000倍 100倍	2g 50g 1kg	300g	— —	べと病、さび病、黒とう病(ICボルドー66D) べと病、さび病(コサイド3000)	
12	8	下旬		ICボルドー66D 又はコサイド3000(クレフノン加用)	50倍 2,000倍 100倍	2g 50g 1kg	300g	— —	べと病、さび病、黒とう病(ICボルドー66D) べと病、さび病(コサイド3000)	
13	9	収穫後		ICボルドー66D 又はコサイド3000(クレフノン加用)	50倍 2,000倍 100倍	2g 50g 1kg	300g	— —	べと病、さび病、黒とう病(ICボルドー66D) べと病、さび病(コサイド3000)	● <b>ブドウトラカミキリ</b> の発生が多い園地では、 <b>スミチオン水和剤</b> (1,000倍、21日前まで)を散布する(13回目に混用可)。

## ■殺菌剤

薬剤名	使用時期	使用回数
デランフロアブル	休眠期	1回
ベンレート水和剤	休眠期	1回
オーシャイン水和剤	収穫7日前まで	2回以内
アリエッティC水和剤	収穫30日前まで	3回以内
ジマンダイセン水和剤*注1	収穫45日前まで	2回以内
リドミルゴールドMZ*注1	収穫45日前まで	2回以内
フロンサイドSC	開花直前～落棄期(但し、収穫60日前まで)	1回
フルピカフロアブル	収穫30日前まで	2回以内
スイッチ顆粒水和剤	収穫30日前まで	2回以内
ストロビードライフロアブル	収穫14日前まで	3回以内
オンリーワンフロアブル	収穫前日まで	3回以内
エトフィンフロアブル	収穫7日前まで	4回以内
ランマンフロアブル	収穫14日前まで	3回以内

薬剤名	使用時期	使用回数
ICボルドー66D	—	—
コサイド3000	—	—

## ■殺虫剤

薬剤名	使用時期	使用回数
スミチオン水和剤40*注2	収穫21日前まで	2回以内
ガットサイドS*注2	幼虫嚙入期直前～嚙入初期(但し、収穫21日前まで)	2回以内
パダンSG水溶剤	収穫14日前まで	2回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫21日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内
ディアナWDG	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	3回以内

アンダーラインは令和7年度防除暦からの変更点

※散布に当たっては、農薬のドリフト(園外への飛散)の無いよう、十分留意して散布してください。

※農薬はラベルを熟読の上、その記載されている使用基準を守って適正に使用しましょう！！

※使用時期、使用回数等の使用基準は令和8年2月4日現在の登録内容です。常に最新の情報を確認してください。

## ■殺菌剤の主な使用ガイドラインと薬剤例 ※耐性菌発生リスク低減のため

薬剤タイプ	年総使用回数	主な薬剤例
DMI剤	年総使用回数は原則2回以内、うち単剤使用は1回以内	単剤: オンリーワンフロアブル、オーシャイン水和剤
SDHI剤	年総使用回数は原則1回以内	単剤: カンタスドライフロアブル、アフェットフロアブル
QoI剤	年総使用回数は原則1回以内(本剤に対する耐性べと病菌が確認されており、べと病への防除効果は期待できないので注意する)	単剤: ストロビードライフロアブル、アミスター10フロアブル 混合剤: ホライズンドライフロアブル
Qii剤	年総使用回数は原則1回以内	単剤: ランマンフロアブル、ライメイフロアブル
CAA剤	年総使用回数は2回以内、うち単剤使用は原則1回以内	単剤: レーバスフロアブル 混合剤: ベネセット水和剤*注1、ジャストフィットフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤

\*注1: 成分にマンゼブを含む農薬。マンゼブの年総使用回数は2回以内

\*注2: 成分にMEPを含む農薬。MEPの年総使用回数は4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)